

## 【論文】

# 褒め言葉への応答：学生と中高年の世代差

糸井 江美

Responding to Compliments:  
A Comparison of Students and Middle-Aged Adult

Itoi, Emi

This study compares compliment responses made by Japanese students and middle-aged people. Disparity of the average age between the two groups is about 23 years. They (24 students and 17 middle-aged) responded to written compliments in a questionnaire. Data including 139 strategies in total were analyzed for their frequency in use. Consequently some differences in their compliment responses were found between the two groups: the students tended to use more formulated strategies and the middle-aged tended to make more excuses. The author hopes that this paper provides a basis for further studies of Japanese compliments which take disparity of age into consideration.

キーワード： 褒め言葉、学生、中高年、世代差

## 1. 序論

対人コミュニケーションの潤滑油として重要な機能を果たしている「褒める」という言語行為には、世代による違いが存在するのだろうか。本研究では、「褒め言葉」ほどは注目されてこなかった「褒め言葉に対する応答」を対象に、世代の差による違いが調査された。

褒め言葉に関しては、語用論や第二言語習得理論の分野で多くの研究が

行われているが (Wolfson 1981, 1983, Holmes 1986, 1988, Nelson 1993, Manes 1983)、その多くは発話行為として褒め言葉を扱い、データは自然な会話や、褒め言葉を引き出すような対話穴埋め問題から収集している。これらの研究が対象としている「褒める」ということは、どう定義されているのだろうか。例えば、Holmesは、

A compliment is a speech act which explicitly or implicitly attributes credit to someone other than the speaker, usually the person addressed, for some "good" (possession, characteristic, skill, etc.) which is positively valued by the speaker and the hearer.

(褒めることは、話者と聞き手によって肯定的な価値が与えられているなにか「優れたこと」に関して、話し手以外の者、普通は話しかけられる者に対して明白に、あるいは暗示的に、称賛する発話行為である。)

また、Manes(1983)は、

Compliments represent one means whereby an individual or, more importantly, society as a whole can encourage, through such reinforcement, certain desired behaviors.

(褒めることは、個人が、あるいはもっと重要なことに社会全体が、そのような強化を通して、ある望まれる行動を奨励することができる一つの方法である。)と説明している。

しかし、衆知の通り、褒める行為は言葉の上では褒めながらも、皮肉、その後続く批判を和らげる、相手を陥れる、あるいは操作するなど多様な機能を有する。また褒める対象は、外見や所持品にとどまらず、能力、性格、努力、そして作品の出来映えなど多様である。

多くの研究が話し言葉における褒め言葉を対象としているなか、Johnson (1992) はクラスメイトの小論を批評するという記述談話に表現される褒め言葉の形態、ストラテジー、機能を分析した。その調査結果に

よって、批評はまず褒め言葉から始まり(84.3%)、その内の39.5%は I (really/especially) like/enjoy NP あるいは I (really) like/enjoy V + ingであるという規則性が存在することが明らかになった。

褒め言葉の研究には比較文化的なものも多く見られ、Chen(1993)はアメリカ英語と中国語の褒め言葉への応答を、Nelson(1993)はエジプト人のアラビア語とアメリカ英語を対象としている。さらに、Wolfson(1981)は、アメリカ人、日本人、イラン人、アラビア人などの褒め言葉の例を紹介している。比較文化的な研究では、それぞれの文化の価値観が褒め言葉やそれに対する応答に反映されており、大変興味深い。つまり、褒め言葉にはその文化で「良い」とされることが表出しており、褒めることでさらにその「良いこと」の価値が強化されていくことになる。

性差も褒め言葉の研究においては重要な要素である。褒められる対象物、男性が女性を褒める頻度、女性が男性を褒める頻度、使用される語彙などを調査すると、ある文化における女性の社会的な位置づけ、ジェンダーに関わる価値基準などを知ることができる。Wolfson(1984)によると、アメリカ英語での褒め言葉に使われる形容詞は主としてnice, good, great, beautiful, prettyの5つであるが、前の3つは女性にも男性にも同じように使用されるのに対し、後の2つ、つまりbeautifulとprettyは男性容姿を褒める言葉として使われることはない。一般的に男性の何に対してどのような形容詞を使うかに関しては制限があるが、女性に関しては男性はより自由に形容できるという不平等が褒めるという言語行為に存在しているといえる。

性差と同様に年齢差も褒め言葉には大きな影響を及ぼすと考えられるが、年齢差に関する研究となると著者の知る限りでは行われていない。また褒め言葉自体の研究に比べると、褒め言葉への応答に関する研究は数が限られている(Chen 1993, Holmes 1986)。そこで、本研究では、日本語による褒め言葉への応答を20歳以上年齢差のある二つのグループ、学生と中高年で比較し、違いとその特徴を調査することにした。

## 2. 方法

本研究の被験者は大学生24名（女性14名、男性10名）、中高年17名（女性11名、男性6名）である。中高年の年齢は男女とも30歳代から50歳代で、平均年齢では大学生とおよそ23歳の年齢差がある（中高年の平均年齢：43.5歳、大学生の平均年齢：20.2歳）。

褒め言葉に対する応答のデータは記述式の「対話穴埋め問題」を使い、髪型と服装を褒められるという2つの状況を設定した（資料1を参照）。「褒める」という言語行為が対象とするのは、相手の外見、能力／才能、仕事の出来ばえ、行動、性格など多岐にわたり、その機能も対人関係の潤滑油としての役割や、相手を励ましたり、しつれたりと多様である。本研究では、その中でも最も一般的に挨拶代わりに行われる「外見（髪型と服）を褒める行為」を調査対象とした。被験者は「対話穴埋め問題」に書かれた褒め言葉に対して、自由に応答を記載することが要求された。

データを数量的に分析するために、記載された「応答」を7つのストラテジーに従って分類した：1. 肯定、2. 否定、3. 疑問、4. お返し、5. 情報提供、6. 冗談、7. 言い訳。さらに「肯定」は下位分類として「感謝」「同意」「喜び」の項目を設けた。「否定」には「そんなことはないよ」「私は好きじゃないんだ」と否定的なコメントが含まれている。「疑問」は、「本当?」、「変じゃない?」と質問を返す形で褒められた内容に関して疑問の気持ちを表している。「お返し」とは、「あら、あなたのスカートもすてきよ」と相手を褒め返す表現である。「情報提供」は「駅前のデパートで買ったの」と情報を提供する表現とする。「冗談」では、例えば髪型を褒められた場合に「うまく禿隠しが出来てるでしょ?」などと冗談を返す例である。「言い訳」は「イメージ・チェンジしなかったから」などと説明する例である。（具体的な例は資料2を参照。）

記述された応答は上記の7つのストラテジーに従い、分類し、数を数え、それぞれの割合を百分率として求めた。一人の被験者が二つ以上のストラテジーを使用して応答している場合は、それぞれのストラテジーに分

類した。つまり、「本当? どうもありがとう」は、疑問と肯定のストラ  
テジーがそれぞれ1つつつと計算した。

以上の分類方法は以下の先行研究で報告された分類方法を参照に作成し  
たものである。例えば、褒め言葉への応答の研究では、Holmes(1986)が  
以下のようなストラテジーを使ってデータの分析を行っている。

A. ACCEPT

1. Appreciation/agreement token
2. Agreeing utterance
3. Downgrading/qualifying utterance
4. Return compliment

B. REJECT

1. Disagreeing utterance
2. Question accuracy
3. Challenge sincerity

C. DEFLECT/EVADE

1. Shift credit
2. Informative comment
3. Ignore
4. Legitimate evasion
5. Request reassurance/repetition

またChen (1993) は、アメリカ英語のデータと中国語のデータを以下  
のように分類した。

アメリカ英語:

1. Thanking
2. Agreeing
3. Expressing gladness
4. Joking

5. (Thanking and) Returning Compliment
6. Offering Object of Compliment (or help)
7. Encouraging
8. Explaining
9. Doubting
10. Rejecting (the compliment) and Denigrating (the object of the compliment)

中国語：

1. Disagreeing & Denigrating
2. Expressing Embarrassment
3. Explaining
4. Thanking and Denigrating
5. Thanking (only)

### 3. 結果と考察

髪型を褒められた場合の応答では、学生のストラテジー総数は42で、その内訳は「肯定」が57.1%、「否定」が7.1%、「疑問」が35.7%であった。一方、中高年の場合は、ストラテジー総数は27で、その内訳は「肯定」が29.6%、「否定」が7.4%、「疑問」が22.2%、「言い訳」25.9%、「情報提供」が7.4%、「冗談」が7.4%であった。以上の結果から、学生が「肯定」する割合が中高年より多いこと、学生よりも中高年がより多様なストラテジーを使ったことが示唆される。(図1と2を参照)

「肯定」の内容をそれぞれ詳しくみてみると、学生では24の肯定表現のうち「ありがとう」という感謝が15例で、肯定表現全体の62.5%を占めていた(図3)。その他の「肯定」には「私も気に入ってるんだ」などのように「同意」する例が8例(33.3%)、「うれしい」と喜びを表現するのが1例(4.2%)であった。また15例の「疑問」表現の内、「そう？」が12例で、80%を占めていた。「疑問」と「感謝」の二つを組み合わせた

「そう? ありがとう」という表現を使用した学生の被験者は24人中8人で、もっとも頻度の高いストラテジーとなっていた。

一方、中高年の表現を詳細に見てみると(図4)、肯定表現の75%が「ありがとう」という感謝の表現であり、「同意」が2例(25%)、「喜び」は0例(0%)であった。また中高年の応答の特徴としては、そのストラテジーの多様性以外に、「言い訳」の存在が上げられる。学生では1例もみられなかった「言い訳」が25.9%の高頻度で観察された(資料2を参照)。

次に服装に対する褒め言葉への応答を分析してみた。学生のストラテジー総数は43、内「肯定」が58.1%、「否定」が7.0%、「疑問」が20.7%、「お返し」が4.7%、そして「情報提供」が9.3%であった(図5)。一方中高年のストラテジー総数は27、内「肯定」が59.3%、「否定」が7.4%、「疑問」が11.1%、「お返し」が3.7%、「情報提供」が3.7%、「言い訳」が14.8%であった(図6)。ここでは、「肯定」と「否定」の割合に差は観察されなかったが、髪形を褒められた場合に中高年にみられたストラテジーの多様性と「言い訳」多用の特徴は、服装に関しても観察された(資料2を参照)。

また「肯定」を詳細に見ると、学生では「感謝」が60%、「同意」が28%、「喜び」が12%であった(図7)。一方、中高年では、「感謝」が75%、「同意」が18.8%、「喜び」が6.2%であった(図8)。髪型を褒められた場合と同様、学生により高い割合で「同意」と「喜び」が観察された。

学生と社会人の褒め言葉に対する応答には、世代の差による価値観の違いが表れたと考えられる。褒められると、素直に受け取り、喜びや同意を表すことが若者では一般的なのだろう。謙遜することが美德という意識が若者の間では薄れてきたのかもしれない。

また、褒め言葉へ応答する場合、一般的にはある種の葛藤が生まれると思われる。つまり、褒め言葉を受け入れて同意すると自尊したように相手にとられる危険性を犯すことになる。一方、相手の言葉を言下に拒否すると失礼な行為になる危険性がある。そこで、「ありがとう」と感謝の気持

ちを表して、褒め言葉を比較的消極的に受け入れるストラテジーが、最も好まれるのだろう。本研究結果においてもっとも頻繁に使われた「そう？ありがとう」という応答ストラテジーにもみられるように、「そう？」という疑問を挟むことにより、さらに控えめな「受け入れ」が表現できることになる。

北尾（1989）によると、アメリカ国内では、地域により褒め言葉に対する応答に差が存在する。しかし、一般的にはアメリカでは褒め言葉は素直に受け止められる。その理由を北尾は、<sup>1)</sup> 褒め言葉を否定すると相手はさらに強く褒めるので、相手に更に褒めさせようとしていると誤解されたくない、<sup>2)</sup> 否定することにより、相手の判断の間違いを指摘することを避けたいのだ、と説明している。相手の面子を考慮する点では日米の共通性がみられ、日本人の若者が中高年より「同意」する傾向が高いことから、彼らがさらにアメリカ人のストラテジーに近づいているといえるのではないだろうか。

#### 4. 結論

本研究では、およそ23歳の年齢差がある二つの世代に、褒め言葉への応答に相違点が存在することが示された。調査の結果、髪型が褒められた場合、学生は「ありがとう」あるいは「私も気に入ってるの」と肯定的に受け入れる表現が全体の57.1%を占めたが、中高年では29.6%にとどまった。しかし、中高年は「冗談」「情報提供」「言い訳」など、学生では観察されなかったストラテジーを使用し、褒め言葉への応答ストラテジーにより大きな多様性がみられた。特に「言い訳」は際だった特徴として、ストラテジー総数の25.9%を占めていた。

服装が褒められた時の応答に関しては、学生も中高年も「肯定」表現がストラテジー全体数の過半数を占めた。しかし、髪型同様、服装に関しても中高年には応答ストラテジーの多様さと「言い訳」の頻度の高さが特徴として観察された。また、「肯定」表現の中に含まれる「感謝」、「同意」、

「喜び」の割合にも世代の差が認められ、学生の方が素直に同意したり、喜びを表現していた。

「褒める」「褒められる」というような面子が犯される危険性がある言語行為では、ある種の決まったストラテジーを使用することで、望まない誤解や混乱を避けようとしているのかもしれない。そしてその選択されるストラテジーには、学生には学生の、中高年には中高年の、女性には女性の、男性には男性のストラテジーが存在し、社会的あるいは文化的な背景の違いによって差が生じてくるのだろう。

今回の調査では、注目に値する興味深い世代の差が観察されたが、多様な形態、機能を持つ褒め言葉のごく一部である「外見を褒める」行為のみを対象にしたにとどまり、被験者の数が少なかったため統計的な処理ができなかった。今後の研究では、さらに数多くのデータを収集するとともに、年齢、性、社会的背景、会話が発生する状況などの要因を考慮する必要があるだろう。また今回は、現代における世代の差を視点に調査を行ったが、過去の資料から現代と数十年前の褒め言葉を比較して、価値観の変化を知ることが興味深いと思われる。本研究が今後の「褒め言葉」の研究や日本語教育に多少なりとも役立てば幸いである。

引用文献

Chen, R. (1993) Responding to compliments: A contrastive study of politeness strategies between American English and Chinese speakers. *Journal of Pragmatics* 20: 49-75

Holmes, J. (1988a) Compliments and compliment responses in New Zealand English. *Anthropological Linguistics* 28: 485-508

Holmes, J. (1988b) Paying compliments: A sex-preferential positive politeness strategy. *Journal of Pragmatics* 12: 445-465

Johnson, D. (1992) Compliments and Politeness in Peer-review Texts. *Applied Linguistics* 13: 51-71

Manes, J. (1983) "Compliments: A mirror of cultural values" in N.Wolfson and E.Jud (eds.) *Sociolinguistics and language acquisition*, 96-102. Rowley, Ma: Newbury House.

Nelson, G. (1993) Egyptian and American Compliments: A Cross-Cultural Study. *International Journal of Intercultural Relations* 17: 293-313

Wolfson, N. (1981) Compliment in cross-cultural perspective. *TESOL Quarterly* 15: 117-124.

Wolfson, N. (1983) "An empirically based analysis of complimenting in English" in: N.Wolfson and E.Judd (eds.) *Sociolinguistics and language acquisition*, 82-95. Rowley, MA: Newbury House.

北尾謙治・北尾S.キャスリーン(1989) 「異文化交流の諸相：8 ほめことば」  
『現代英語教育』12月号 40-41

資料1. 対話穴埋め問題

次の状況に対する貴方の返答(実際に口に出している内容)を教えてください。

- 1) あなたは昨日美容院(理髪店)に行きました。今朝会った知人が言います。  
「あれ、美容院行ったの? すてきね」

- 2) あなたは新しく買ったセーターを着ています。その日会った知人が言いました。  
「そのセーターいいわね。よく似合っている」

資料2. 中高年による「言い訳」の例

1. 髪型

- 「気分転換してみたかったから」
- 「すっきりしたいと思ったから」
- 「長くなったから思いきって切っただけよ」
- 「あんまりひどかったから切ってきたの」

2. 服装

- 「前から欲しかったからつい買っちゃって」
- 「たまにはおしゃれも必要だと思って」
- 「最近お腹がでてきたから体型を隠したくて」

褒め言葉への応答：学生と中高年の世代差

図1 髪型を褒められた場合：学生

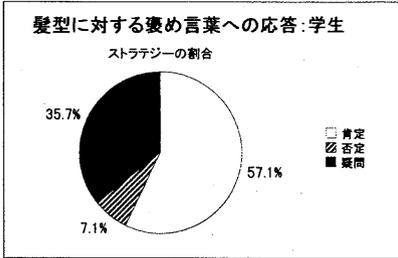


図2 髪型を褒められた場合：中高年

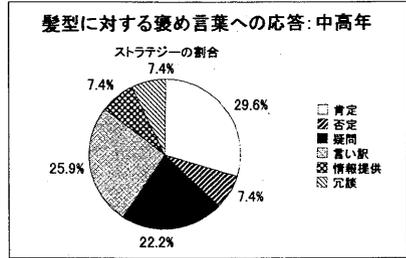


図3 肯定表現（髪型）：学生

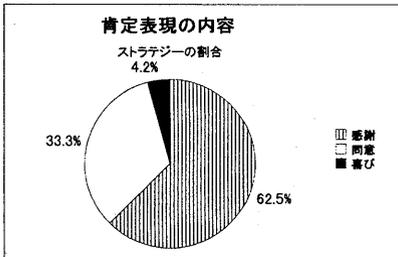


図4 肯定表現（髪型）：中高年

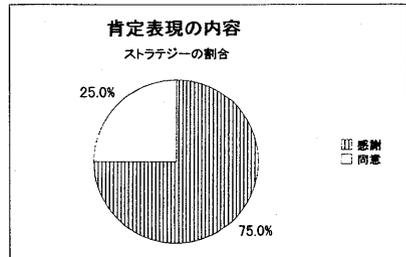


図5 服装を褒められた場合：学生

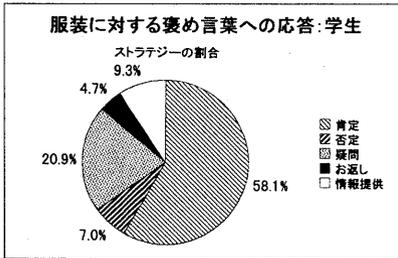


図6 服装を褒められた場合：中高年

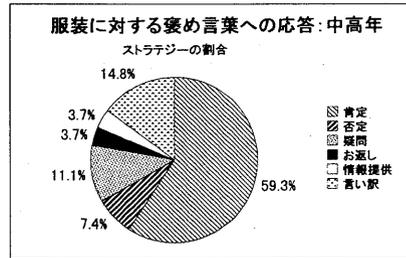


図7 肯定表現（服装）：学生

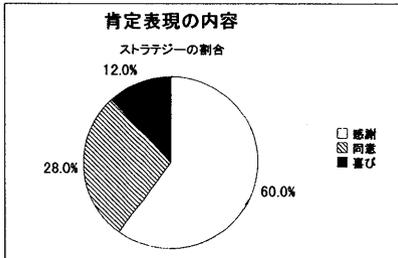


図8 肯定表現（服装）：中高年

